

2023(令和5)年9月

習志野市男女共同参画社会づくり情報紙

第56号

きらきら Kira Kira きらきら

特集 家庭から始める**男女共同参画**
～「誰か」ではなく、「わたし」が～



誰でも、無意識のうちに“当たり前だ”と思っていることはたくさんあります。

家庭生活においては、洗濯、掃除、料理、育児・・・
いつのまにか、誰かがやって当たり前になっていませんか。

誰もがその人らしく活躍できる社会の実現のためには、「誰か」ではなく、
みんなで取り組むことが大切です。

情報紙「きらきら」は今号から、新たに市立中学校にも配布することになりました。
この機会に、基本に立ち返り、「男女共同参画社会とはなにか」「わたしにできること
はなにか」を一緒に考えていきます。

「男女共同参画」って何だろう？

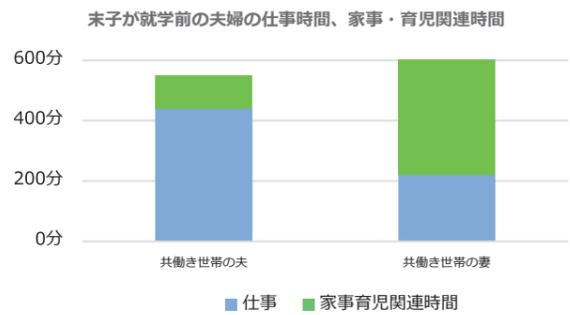
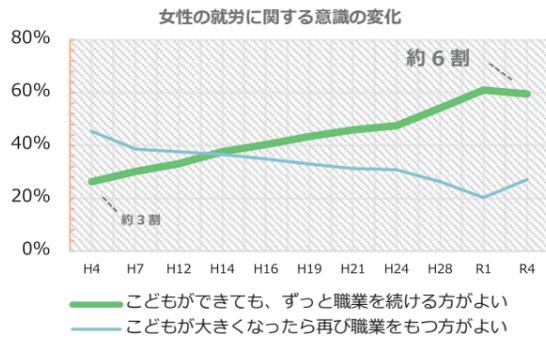
男女共同参画が目指す社会は？

男女共同参画とは、男女が政治的、経済的、社会的及び文化的利益を均等に享受することができ、男女ともに喜びも責任も伴いつつ個性と能力を発揮できる社会を目指すことです。誰もが意欲に応じて、いきいきと暮らすことができる社会の実現を目指しています。

実現するために、なにができる？

無意識のうちに「男だから、女だから」と思っていることはありませんか。例えば、家庭生活の中で「男性は仕事」「女性は家事育児」など、性別で役割を決めつけることを性別役割分担意識と言います。一人ひとりが今ある自分の日常の中で、当たり前だと思っていることを見つめ直していくことが大切です。

日本の現状



内閣府「男女平等に関する世論調査」(平成4年)、「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成7年～令和4年)より作成

総務省「社会生活基本調査(令和3年)」より作成
家事育児関連時間は「家事」「介護・看護」「育児」「買い物」の合計

* 出産や育児など、ライフイベントに関わりなく仕事を続けたいという女性の意識が高まっています。しかしながら、共働き世帯の夫婦では、男性と比較して女性の家事育児関連に関わる時間の割合が大きい状況が続いています。

今号では、性別にとらわれず、夫婦で一緒に家事育児に取り組んでいる3組のご家族取材し、工夫しているポイントを伺いました。

家族こそコミュニケーションが大事！



本紙「きらきら」編集委員の長女。現在、育児休業取得中。

子どもが生まれてから、夫婦で考え方のゴールをよく話し合い、決めておくことが大切だと感じるようになりました。例えば、私は、後片付けまでご飯を作ることだと思っているのですが、夫のゴールは「ご飯を作る」ところまで。なので夫がご飯を作ったあとはキッチンがぐちゃぐちゃなことがあります。他にも、子どもを連れて外出するときに、準備に追われる私を気遣い、夫が「子どもを見ておくよ」と言ってくれたのですが、戻ってくると本当に見ていただけ。子どもの靴下を履かせるなど、やってほしいことがあったので

家族構成
ご自身 30歳代
夫 40歳代
長男 8か月

つい夫に怒ってしまいました。でも、振り返ってみると、夫から私に「何かしておくことある？」の一言が欲しかっただけなのかもしれない、逆にちゃんと準備することを夫に伝えていけば、怒らなくて済んだのかもしれないと反省しました。自分のやり方が100点満点というわけでもないし、夫のやり方も一理あると思います。そんなときは、一呼吸おいて、「お互い見ている視点が違う。夫はどうしてそう思ったのだろう。」と想像するようにしています。

家事分担というと50%-50%と考えがちですが、我が家は臨機応変。困っているときにお互いが助け合えば十分かなと思っています。そもそも、お互いの条件(育児中かどうか・どんな働き方なのか)が違うので、歩み寄ることが大切だと思います。あとは、自分が頼んだこと+aでやってくれたことには、ありがとうを伝えることが大事だなと思っています。「ありがとうの反対は当たり前」、当たり前じゃないと気付くことが大切だと思います。家族だからこそ、しっかりとコミュニケーションをとりたいです。

大切なことは、できる人ができることをやる！



家族構成
ご自身 40歳代
夫 40歳代
長男 高校1年生
長女 中学1年生
次男 小学5年生

ご飯の準備、保育所の送迎をしてくれました。夫が勉強を教える姿をみて、長男が次男の勉強をみてくれたり、長女も料理やお風呂掃除を手伝ってくれています。空になったティッシュ箱の交換など、私が言わなくても自然と協力してくれています。本音を言えば、洗濯物の畳み方とか、自分のやり方とは違うと思うこともありますが、手伝ってくれたことにちゃんと感謝を伝えるよう心掛けています。

男女共同参画センター登録団体「勇気づけ育児の会」のメンバー。昨年まで、共働きで子育てに取り組む。

私自身も遅くまで仕事をして、子どもたちのお迎えから帰ってすぐにご飯の準備をして、寝かしつけをして……。息つく間もない感じで、本当に時間に追われた生活でした。そんな中でも、夫は子どもの勉強や

振り返ってみると、私が幼いときに、母からよく手伝いを頼まれていましたが、母は私の弟にも同じように料理や掃除の手伝いを頼んでいました。男の子だから、女の子だからではなく、できる人ができることをやるという考え方は母から教わった大切な考え方だと改めて思いました。

家事も育児も全力で 育休で変わる子育て意識



家族構成
ご自身 30歳代
妻 30歳代
長男 小学6年生
長女 小学3年生
次女 小学1年生
次男 保育園年中

担を決めず、夫婦それぞれが得意分野を生かしてやってきました。子どもが成長しているいろいろなことができるようになり、今では子どもたちと一緒に、「洗濯物の片付け」「テーブルの上をきれいにする」「食器の片付け」の3つを当番制で取り組んでいます。

令和5年2月に市主催の講座に参加。4人目が生まれるタイミングで初めて育児休業を取得。

令和元年度に「働き方改革」をテーマとした市の講座に参加したことがきっかけで気持ちが変わり、4人目の子どもが生まれたときに初めて育休を取得しました。育休中は慣れないことばかりでしたが、苦手な料理も含めて、授乳以外のすべてに関わりました。復帰後も、おむつ替えや洗濯物の片付け、子どもの送迎など、分

家庭以外では、子どもが通うサッカーチームに参加し、子どもと過ごす時間を大切にしています。育休中に指導者と審判のライセンスを取り、今は専属でコーチをさせていただいています。子どもの成長はあっという間なので、子育てには全力で関わりたいと思っています。なので、今日の出来事や学校からの連絡事項などは、夜に夫婦でお酒を飲み、一息つきながら情報交換するようにしています。

妻はよく私たちに「ありがとう」って言ってくれるのですが、私は妻に感謝を伝えられていないのかもしれない。日頃からありがとうを伝えることが大切だなと思います。

取材を終えて～編集委員の声～

- ・時代、世代によって家族のあり方、関わり方が変化していると思います。いつの時代もコミュニケーションがとても大事(我が家の場合！?)と改めて思いました。(佐藤委員<70歳代>)
- ・家事も育児も、人に対する思いやりや感謝の気持ちを忘れずに伝えることが、とても大事だと改めて感じました。(S委員<50歳代>)
- ・親世代から自分の世代、そして取材を受けていただいた世代を比べて、男性の家事育児への参画意識が高まっていると感じる。それと同時に、女性側の意識も「家事育児は女性の仕事」から、「対等に分担、状況によっては逆転も有り」と良い方向に向かっていると感じました。今の子育て現役世代の方々はお互いに工夫し助け合いながらやっていて、偉い！そして頼もしく思いました。(宍倉委員<60歳代>)
- ・夫婦全力で育児・家事に向き合っていることがよくわかりました。本紙を手にとって読まれている方からは「うちも同じようなことがあるわ」という声が聞こえてきそうです。(高橋委員<70歳代>)

* 特別なことではなく、一人ひとり、自分にできることをやっていくことが男女共同参画社会につながるのではないのでしょうか。

◆男女共同参画コラム◆

「**少子高齢化と男女共同参画**」

近年、少子高齢化（人口減少）が問題視されています。男女共同参画と少子高齢化は一見、別の問題のように思えるかもしれませんが、関係していると考えられることもできます。高齢者を始めとするケアが必要な人口が増加する中で、現役世代、特に女性の活躍が求められています。しかしながら、仕事や子育て、介護を両立出来る環境が十分に整備されていないことから、夢を持ち自己実現をしたいと思う人が、様々な負担を感じているのかもしれません。女性と男性が対等に社会で活躍するために、夫婦・家族で助け合い、誰かに負担が偏らず、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という気持ちで皆が幸せに生きてほしいと思います。（宍倉委員）

編集委員のおすすめ図書 

パパの家庭進出が
ニッポンを変えるのだ！

著者：前田晃平
光文社
発行 2021 年



新米パパになり2ヶ月の育児休業を取得。妻と協力し合いながら家事に育児に毎日奮闘。失敗しながらも出来ることをやっていく体験談をつづった一冊です。ママは家事に育児に仕事にと目いっぱい頑張る中で、ママが社会で活躍するためにはやはり「パパの家庭進出」がなくてはならないと実感した作者。この本は新米パパが豊富なデータと試行錯誤の毎日の実体験をnoteにしたためてきたことを初めて書籍化したものです。また本の中では保育、教育の現場で過去に性犯罪歴がないことを確認する「日本版DBS」という仕組みを国に求め、総理大臣にまで届けることができたことが紹介されています。本書が家庭、家族、子育てそしてご自身の幸せの在り方を見つめ直すきっかけとなれば幸いです。（高橋委員）

◆上記の本は男女共同参画センターで貸し出ししています◆

図書の貸し出しについて

- * 市内在住・在勤・在学者対象
- * 1回5冊まで、期間は2週間

下記 QR コードから市ホームページ内「情報ライブラリ」にアクセスし、男女共同参画センター図書一覧から本を決定、ちば電子申請サービスまたはお電話でお申込みください。



令和5年7月11日
パートナーシップ・ファミリーシップ制度にかかる
都市間連携協定を締結しました。

市民一人ひとりが互いの人権を尊重し、多様性を認め合い、支え合いながら、誰もが大切なパートナー又は家族とともに暮らすことのできるまちの実現を目指し、令和4年6月1日に習志野市パートナーシップ・ファミリーシップ制度を開始しました。今回、同様の制度に取り組む近隣5市との間で都市間連携協定を締結しました。これにより、制度利用者が市外へ転出、または習志野市に転入する際に必要な手続きを一部省略することができます。



協定締結市（左から）
市川市・柏市・千葉市
習志野市・船橋市・松戸市

女性の生き方相談

* 無料 * 要予約 * 秘密厳守 * 市内在住・在勤・在学者対象

◎夫婦のこと ◎家族のこと ◎人間関係のこと ◎自分自身の生き方について ◎これはDV? (ドメスティック・バイオレンス) …など 初めの方でも安心してご相談ください。

<面接相談> 女性の専門相談員があなたと一緒に考えます。

日時：第1金曜 午後1時30分～3時10分・4時～7時40分

第2・4火曜、第3木曜、第3金曜

1回40分

午前9時～11時40分・午後0時30分～4時10分

申込：習志野市男女共同参画センター（ステップならしの）

電話：047(453)9307

きらきら編集委員募集中！

「きらきら」は、センター職員と市民ボランティアの編集委員が協働で発行しています。

編集会議は、平日の月1回・オンラインによるリモート参加も可能です。見学いただくこともできますので、ご興味がある方は男女共同参画センターまでご連絡ください。

より良い紙面づくりのため、記事等に関するアンケートを実施しています。皆さんの率直なご意見・ご感想をお聞かせください。

【回答方法】右記のQRコードから回答してください。

